

こだま新聞

第49号

平成11年11月

介護保険制度

介護保険が始まるまで4ヶ月足らずとなった。近頃、保険料の負担についての論議が国会で話題となっている。与党案(10月30日現在)では半年間の凍結を打ち出している。

来年の4月からは老人医療の保険料が1割負担になることがほぼ決まり、さらに介護保険料も支払わなければならないことは国民にとって負担が多くなる。しかし、4月から介護保険が始まり、その支払いは必要となる。半年分の介護保険料は国債(国の借金)で賄うと言っているようであるが、支払いを先延ばしにすることによって負担が減っているわけではない。次の世代の負担が増えるということだ。国民の懐を痛めないようにして国民の非難をかわし、制度を通してしまおうという賢いやり方に見える。

介護保険はもとと老人医療費の増大を防ぐために、老人保険に含まれていた介護に相当する部分

を独立させ、別個にして保険料を徴収する制度である。もとと行き詰まった制度を繕うための改訂だったのに今度のような上辺だけに介護保険制度も行き詰まることは目に見えている。国民受けの良い改訂だけしていると保険制度はすぐに破綻するだろう。保険制度の問題点を理解して政策を行っているのか甚だ疑問に思う。

もともと、保険制度自体、現在の社会には合わない制度になっているのに、破綻を起こさない程度に改訂している厚生省の政策も問題なのだが。

青少年「心の病」

10月16日に八郎潟町公民館にて杉山和先生をお招きして「心の病」という演題で講演をしていただいた。参加者が少なく開催者としては残念な会となったが講演はともわかりやすく、様々な示唆を与えていただいた。

特に乳幼児期の親子の接し方が後々の精神病の発症を決定づけて

しまうこと

は驚異だった。これから出産する妊婦や結婚する若い男女はぜひとも養育の知識として知っていただきたいと思った。

八郎潟町では子育て教室や妊婦相談日があるが、是非このような専門家の講義を聴く機会が与えられるよう、働きかける必要があると思った。

八郎潟町は南秋田郡でも精神的な病を持っている人が多いと聞いた。肉体的な病気を予防する努力とともに精神的な病を防ぐ努力も必要な時代だと感じた。

講演の内容はビデオで記録してあります。ご覧になりたい方は受付にお話下さい。約1時間半くらいです。

秋田県南秋田青年会サミット

あきた湖東青年会議所が主催して「男鹿南秋青年サミット」が10月28日にサンルーラル大潟で開催された。

この地域では19団体あるそうだが、今回参加したのは9団体だけ



であった。最初の会合ということで各団体の紹介とこれからの会合の持ち方が中心となった会であったが、これからの男鹿南秋地域の産業を活発にさせる起点となればと思う。

八郎潟町からはメビウスと八郎潟町商工会青年部が参加した。広域的な交流が求められている反面、それによって地域の産業基盤が揺らいでしまうのではないかと、いう漠然とした不安も抱えているといった現状が意見の中に見え隠れしていた。

アドバイザーとして参加した県立農業短大北原講師から、秋田の自然は素晴らしい、しかし、すばらしい自然を生かしていない。それに、この自然に憧れて住みたいと思う学生もいるが住むための職が見つからない。ここら辺に秋田の問題があるのではないか。」といった率直な意見も出た。最後に総括として

広域化は必然的な時代の流れ。それならば広域化するための下地作りが



我々若者に科せられた課題。そのためにお互いを良く知り真剣な意見交換ができる関係を構築することから始めましょう」とまとめた。

来年度もこのような交流会を開催することを満場の一致で可決し終了した。

今後の活動が期待される。

終了証

次のみなさんに修了証をお渡しすることができました。

佐藤 純さん
相馬 智美さん
沢田石 円さん
三戸 沙織さん
藤田 元輝さん

今月の行事

十月
30日 八郎潟町産業文化祭
31日 チャリティ実行委員会
十一月
5日 メビウス役員会
11日 男鹿南秋歯科医師会
13日 メビウス研修会
17日 男性学講座
20日 岩手医科大学術講演会
21日 近代口腔科学研究会
23日 ブラジル料理教室
28日 メビウス・ダマコもち大会